

# 伯耆大山(ほうきだいせん)・蒜山(ひるぜん)三山と出雲大社詣り



「元谷から仰ぐ大山北壁」

期 日 2013年9月25日～28日  
参 加 石川誠 他1名

9/25日(水) 現地雨 横須賀～羽田発米子行きに乗って米子着 11:35～レンタカーで大山寺へ 15:20 着宿泊

羽田 10:30 ANA 便で米子へ初めてシニア割引を使う。米子空港でレンタカーを借り、時間も早いので境港にある水木しげるのゲゲゲの妖怪記念館を見学。ここからは隠岐島へのフェリーが出ている。見学後大山登山口となる大山寺へ。この頃から予報通り雨となる。

9/26日(木) 晴 宿舎－大山夏山登山口駐車場 8:30 発－五合目避難小屋経由・11:25 着大山頂上(弥山) 12:00 発－12:45 六合目避難小屋下分岐 12:45 通過し行者登山道から本谷避難小屋へ大山北壁下大堰堤－大神山神社奥宮 14:15 着  
－14:55 駐車場着－蒜山高原へ

此処大山寺は、有名な大神山神社奥宮と大山寺本堂が祀られ、その参詣の為の街として発展してきた町である。宿舎から夏山登山口に車を止め登山準備、すでに 10 台位の車が駐車していた。ここでは「一木一石運動」が奨励され、荒れる大山の保護活動が行われている。途中阿弥陀堂を經由しブナ林などの中、木柵の階段を登って行く、五合目山の神を過ぎると行者谷別れとなっていて下りはこちらの道を下る。



「大山への指導標」

登山口から学校の年間行事として地元伯仙小学校 5 年生 50 名が先生方に引率され元気に登って来ていた。六合目の避難小屋で休憩、ここから遙か彼方に弓ヶ浜などか見えてくる。

また、大山北壁の岩壁群が見えるが夏場は崩壊が激しく取りつくのも大変ではないか。冬場は素晴らしいクライミングの場を提供していることは周知のとおりである。六合目からは、樹木も低木林に変わり赤い実を付けたナナカマドが多くなる。八合目からは日本海からの冬の強い風の影響で樹高が低いキャラボクが多くなっている。

頂上は石畳で敷き詰められその中に立派な避難小屋が建てられていた。頂上から岡山県の津山高専に赴任しているベルニナ山岳会の田辺氏へ電話したが、あいにく留守であった。帰宅してから電話を戴いたが。

頂上は風強く気温6度と寒く記念写真を撮るとみんな早々に避難小屋に逃げ込んでいた。



「途中から見る大山北壁」

綿のトレーナーを着て食事を持っていないとひもじい顔をしていたので、パン、大福、チョコ、飴を上げて早く下った方が良くと促す。こういう人は冷たい雨に打たれたら一溜りもないだろうと感じる。

下りは六合目下の行者別れの道を辿り北壁

頂上（弥山）から剣ヶ峰への縦走路は現在崩壊が進んで稜線を歩くことは禁止であるが、広島から来た人に聞くと冬場は積雪の関係で縦走できるとのことだか、見るところかなりのナイフリッジになることが予想され、ある程度の技術を持った人以外は取りつかない方が良くと思われる。

寒い頂上で写真を撮り、避難小屋で食事を摂って早々に下る。山小屋で大阪から来たお兄ちゃんが運動靴と



「頂上へと向かう小学生集団」



「俯瞰する美保湾弓ヶ浜」



「大山頂上気温6度」



「崩壊が進む剣ヶ峰への稜線」

下の元谷小屋へと下る。急な木道の下りで一気に下る。下るにつれて周りの樹齢何百年と思えるブナ林が目を楽しませてくれる。

元谷避難小屋は大堰堤の中州に建っていてよく雪崩に襲われないものと思ってしまう。

此処から見上げる北壁は素晴らしく冬場は凄い様相になるものと容易に想像できるほど迫力があつた。



ここから元谷の川沿い林の中を大神山神社奥宮へと着く。この神社は大変立派な木造つくりで屋根が桧皮ぶきで関東ではなかなか見られないのではないかと。かつては修験道霊山として栄え寺院は 100 を超え、「大山僧兵 3 千人」の勢力が居たということである。ここで朱印状に記帳していただき大山寺の参道を下って駐車場に戻った。ここから米子自動車道を通り蒜山高原休暇村に入る。

### 「弥山から剣ヶ峰への稜線」

9 / 27日 (金) 晴 宿舎 8:30 発 - 8:45 着  
犬挟峠 8:50 - 9:55 雲居峠 10:05  
- 11:00 下蒜山 11:20 - 13:40 中  
蒜山 14:00 - 15:25 上蒜山 - 17:40  
- 18:00 宿舎着



朝食後休暇村の車で下蒜山の登山



### 「大神山神社奥宮」

口である犬挟峠に送ってもらう。ここから雲居平までは林の中の急登を進み、鎖の付いた登山道に導かれ下蒜山の頂上に着く。ここからは、これから進む中蒜山、上蒜山の稜線がなだらかに連なり、昨日登った大山や日本海が遠くに霞んで



### 「雲居平」

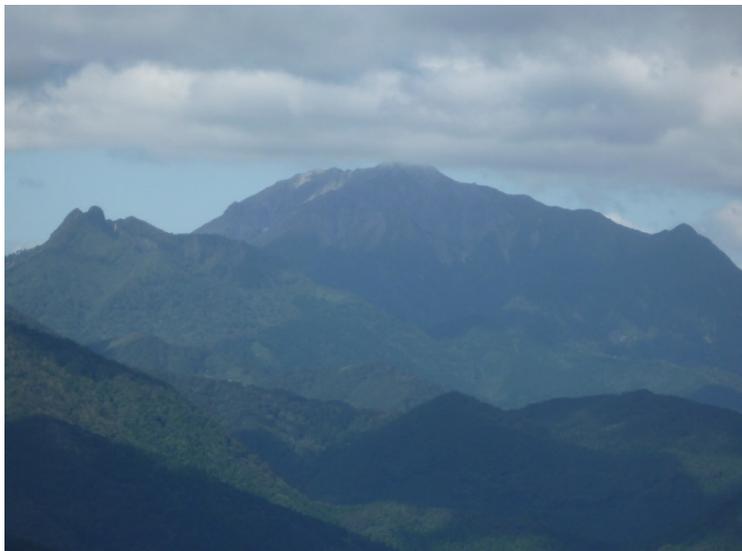
見ることが出来た。頂上から最低鞍部ノフングリ峠に降り立つ。ここから中蒜山には熊笹の中の急登を下った分だけ登り返すルートである。

### 「下蒜山に向けて」

頂上から塩釜ロッジへのエスケープルートがある。下蒜山で相前後して登ってきた広島から来たご夫婦と白い愛犬はここから下るといふ。この方たちは何度も蒜山を訪れていて、3月雪を踏みしめて頂上から眺める大山が雄大で素晴らしく見えるとのことであった。機会があれば一度眺めて見たいものである。



上蒜山は目の前にどっしりと構え下に稜線通しに登山道が見えている。やはり、最低鞍部まで下り、頂上直下は鎖の付いた急登を登ると林の中に指導標が建っていた。頂上はこれから先藪漕ぎをしながら進が切り開かれていないのでルートを探しながら進むが、頂上と言っても林の中、標石があるだけで展望も利かず何とも味気ない頂上である。



### 「頂上から眺める大山遠望」

元来た道を足元を見極めながら分岐点にもどる。折角の上蒜山ならばササを刈り込んで登山道を整備すると良いと思うのだが。地図を見てみると頂上より分岐点の方が標高が高く記載されている？



下山は、ブナ林の中を下って槍ヶ峰。ここからの展望は朝辿ってきた稜線が望め清々しい気持ちになる。この道を蒜山スキー場へと下る。この頃になると昨日の疲れが足に来て辛くなる。途中から宿に車の出迎えを頼み宿舎に戻った。このラドン温泉は疲れた身体を癒し美味しい食事を戴くこ

### 「中蒜山から上蒜山を見る」

とが出来た。夕映えに映える蒜山三山は姿も優美で素晴らしかった。ちなみにこの蒜山三山は鳥取と岡山の県境に位置しているとのことである。





「槍が峰からの中蒜山と下蒜山」



「リンドウ」



「朝焼けの蒜山三山」

9 / 28日(土) 晴 宿舎 9:15-11:30 出雲大社 13:30-14:30 宍道湖道の駅 15:00-16:15 米子空港着-20:40 発-22:05 羽田空港着-帰宅

今日の羽田便は、あいにく満杯で最終便 20:40 分しか取れず、時間つぶしに出雲大社の参拝となる。米子自動車道から山陰自動車道をとおって一路出雲大社へ。一の鳥居近くの駐車場に車を置き大社への参詣となる。出雲大社は 60 年に一度の式年遷宮の年でもあり参拝客も多かった。ちなみに伊勢神宮も今年 20 年に一度の式年遷宮の年であり、いずれの神社も賑やかな年を迎えている。本殿のしめ縄は有名で祭神は大黒様とのことである。拝礼の仕方も一般的には二礼二拍一礼だが、こちらの大社は、二礼四拍一礼となっていた。格式が違うのだろうか。何せ全国の八百万の神がここ出雲の国にお集まりになり旧暦 10 月は本来ならば神無月なのだがこちらは神有月となるのだから。丁度今夜は曳山があつて多くの鯺背な男衆が白装束の法被を着て大勢でお参りをしていた。

博多山笠は山車で引き回すが、こちらは2.5トンの曳山を担いで回るのだから大変だと話していた。さすがに引くのと担ぐのとでは大違い苦勞が多いと思う。



「国宝出雲大社本殿」

が本当だろうか、見上げてみても想像がつかない。昼食に門前で出雲そばを食べ、人ごみの中を駐車場へと戻った。空港への帰りは国道 431 号線をとおって宍道湖の畔を通り、途中道の駅でシジミ汁をすすって松江市を經由し米子空港へと戻って大山・蒜山の登山を無事終えることが出来た。



「出雲大社二ノ鳥居」

こちらの境内に建てられている国旗の掲揚塔は日本一高く掲げてある国旗も7.5畳の大きさだと案内の人が言っていた



「曳山を引く為の安全祈願」



「民話・因幡の白兔の銅像」



「日本一の国旗掲揚等」



「本殿の大しめ縄」



「大神山神社説明版」



「大山に咲くナナカマド」